

大阪ステンレスセンター株式会社

【代表者】北條 俊二郎

【所在地】〒660-0092

尼崎市鶴町1番地 日鉄ステンレス鋼管(株)尼崎工場内

【TEL】06-6416-5700 【FAX】06-6416-5565

【資本金】10,000万円 【従業員】50名

【創業】昭和61年3月

【URL】https://www.osc-cc.co.jp

【事業内容】・ステンレス鋼を主体とする鋼板類の剪断、
裁断、加工及び販売
・前号に付帯する事業

代表取締役
北條俊二郎氏

▲本社工場(10,000㎡の工場)

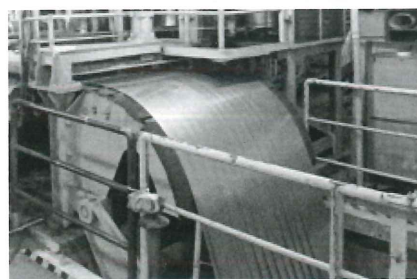
今回は、尼崎市鶴町にある大阪ステンレスセンター株式会社を訪問した。同社は昭和61年に日新製鋼（現日本製鉄）の子会社として設立された。平成31年に日鉄ステンレス株式会社の子会社となり、以来同社の関西地区における中核コイルセンターの一つとしてステンレス鋼の加工をおこなっている。鉄鋼メーカーが製造する大きなステンレス鋼材は、お客様のニーズに合わせたサイズ・形状への加工が必要である。同社はこれらの作業を専用の設備を用いて行い、各社に提供することで産業を支えてきた。この度、令和6年10月に北條氏が7代目社長に就任した。北條氏は日新製鋼（現日本製鉄）・日鉄ステンレスに33年間勤務し、ステンレス鋼の販売部門で豊富な経験を持つ。ステンレス鋼には種類（フェライト系、オーステナイト系など）があり、それぞれ素材の特性が異なりその用途也多岐に亘っている。お客様の要求仕様に応えるためには適切な加工方法を選択する必要がある、その作業には専門性が高く幅広いステンレスの知識が必要不可欠だ。同社ではお客様からお預かりした母材（コイル）を「裁断する作業」と「平らに整える作業」という大別して2つの作業を行い、タイムリーに製品をお届けできる体制を確立している。

裁断する作業

沢山の刃物から必要な刃物を選び、刃組み作業を行なう。刃組みにより寸法精度等が変わるため知識と経験が必要な作業となる。



▲刃組み後、慎重にクリアランスを確認



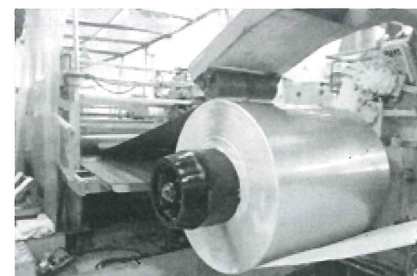
▲裁断の様子



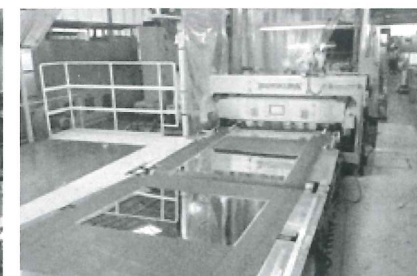
▲表面検査の様子

平らに整える作業

コイル状の母材を、レベラー装置を通してまっすぐ平らにし、指定された寸法にカットする。それぞれのコイルによって、平らにするためのレベラー条件が違うので試し切りを行いながら、適切な条件を見極め、精度の高い加工を実現している。



▲ベイオフリール



▲指定された寸法にカット



▲形状と寸法の確認作業

指差し呼称確認の徹底

同社では、「指差し呼称確認」に力をいれている。指差し呼称を徹底することで、作業の正確性を高め、ヒューマンエラーを防ぐことができる。工場内の随所に、指差し呼称のポスターを掲示し、企業全体での取り組みとして積極的に実践している。また、「安全衛生方針」の標語を社内で公募し、社内全体で安全に対する意識の徹底をおこなっている。



▲工場内の随所に指差し呼称の垂れ幕が掲示されている

同社の業務は重量物である鉄鋼製品を扱うため、一つ間違えると大怪我となるリスクが常に伴う。作業者は安全第一を心掛けた作業を徹底している。

自動化設備の導入

大型のコイルを扱う機会も多く、大物作業においては重い刃物を使用する刃組み作業が非常に大変であった。そのため、同社は令和元年に自動刃組ロボットを導入した。自動刃組ロボットは、作業効率が大幅に向上するとともに、作業者の負担が軽減され安全性の向上において、大きなメリットがあった。



▲大型のコイルは約15トンの大きさ

働きやすい職場へ



▲オペレーターの様子

現場作業員の人手不足は今後さらに深刻化していくことが予想されている。そのため、女性や高齢者など、従来の力仕事に難しい方々にも働きやすい職場環境の整備が求められる。現在、1日に約200トン（20～30コイル）の材料が入荷しており、力作業が不可欠な状況であるが、今後はこれを改善するため、自動化の導入や業務の工夫を進めていきたい、と北條社長は語る。これにより、多様な人材が活躍できる職場作りに取り組み、安全と働きやすさの両立を目指していきたい。